



日本は二十世紀、

「全体主義的経済運
営」によって不幸な

世界大戦を戦い、敗

戦後はその体制のま

ま東西冷戦の不沈空母の役割を

担いながら、復興・高度成長を

してきた。その成長を支えたの

がサラリーマン社会で、一方、

貯蓄を奨励し、預

貯金を集めた銀行

や政府系金融機関が社会主義的

役割を果たした。

戦後の矛盾を象徴した景色が

NHKの人気番組「プロジェクトX」だ。日本に目利きがいな

いといわれて久しいが、この番

組を見て、いかに能力の高い日

本人が多いか日本中が感動して

いる。問題はそこで活躍してき

た日本人が皆、旧体制のサラリ

ーマンで、後輩に投資する資産

家になっていないことだ。

健全な資本主義の下では本

来、成功者は金持ちとなり、消

費しきれない部分は後輩たちへ

のエンジェルとして、賢明な投

資資金提供者となる。これは米

国型などではなく、日本で明治

の先輩たちが夢を見た国民資本

主義のおう歌による経済繁栄の

メカニズムそのものである。

日本が二十一世紀になすべき

ことは明らかだ。明治の先人た

ちが夢を見、その後二十世紀の

全体主義で変形した「国民資本

主義の再構築」である。新時代

の主人公は銀行や大企業の会社

人、官僚ではなく、千四百兆円

の金融資産を賢明に運用しつつ

仕事をしている個人個人であ

る。「日本人個人の創造的投資

活動の再定義」といってよい。

その実現を促すために、まず

は確定申告制度を抜本的に見直

すべきだ。二十世紀型サラリー

マンは源泉徴収で税制に無関心

にされている。自

ら出資した会社が

倒産した場合、個人は損失を申

告できないという時代錯誤の驚

くべき税制になっている。会社

に個人で投資するなど言ってい

るようなもので、これでは国民

資本主義にはほど遠い。

（日本テクノロジーベンチャー

パートナーズ投資事業組合代表

活力、まずは確定申告から